

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|--|--|
| 事業所番号 | 0495400053 | | |
| 法人名 | 有限会社クラスタ | | |
| 事業所名 | やぎあん (ユニット名:1F) | | |
| 所在地 | 仙台市太白区八木山南3-1-12 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月23日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年1月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年同様、感染対策のため、以前のように入居者様のご希望に柔軟に対応した外出ができていませんが、状況をみながら徐々に緩和していました。面会についても早い段階から行なえるように環境を整えています。玄関での「透明カーテン越しの面会」、1Fフロアでの窓越しの面会、LINEを利用してのオンライン面会、1F2Fそれぞれの事務所を開放しての面会と、感染状況をみながら柔軟に対応し、入居者様とご家族様の状態やニーズに合わせて選べる面会ができます。引き続き感染対策を徹底しながら、おひとりおひとりのご希望に沿った、状態の変化に合わせて柔軟な対応をしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームやぎあん」は、八木山動物公園駅から1km程で日赤病院通りに面している。樺並木が続き、近くには商業施設や住宅が並ぶ緑豊かな中にある。配食業者への依頼を止め、ホームで食材調達や調理をすることで更に家庭的なサービスが提供できている。職員の特技を活かした紙芝居や楽器演奏を披露し、入居者の楽しみになると共に職員同士の輪にもなっている。毎月の担当者からの手紙の他に、年1回程発行する「やぎあん新聞」には行事の様子や入居者の笑顔が収められ、家族に届けられて安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:やぎあん)「ユニット名:1F」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念、介護目標を職員全体で共有できています。理念や目標の達成の為に、前向きに取り組んでいます。 | 理念の「我がままに」に沿って、朝食時間は入居者の要望に合わせている。今年の介護目標を自ら出来る事を自ら探せるようにと職員間で共有している。理念と目標は更衣室に掲示し実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 町内会の会員となり、避難訓練などの行事(地域の黄色いタオル運動など)に参加しています。ご近所の困っている方などの相談や助言も受けています。 | 回覧板で町内会行事の情報を得ている。地域の高齢者より、心身の不安の相談を受けたり医療への橋渡しをしている。八木山小学校の街探検の学習で手紙のやり取りがあり、廊下に掲示している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 管理者が認知症介護指導者のため、仙台市内での認知症関連の研修で、日頃の実践を伝えています。地域の住民からの認知症についての相談を受けることもあります。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 感染症予防の観点から、集合形式の運営推進会議は行なっていませんが、報告する内容をまとめた物をお送りする「書面会議」形式を実施しています。ご意見やアイデアも頂戴しています。 | 年6回開催し、地域包括職員や民生委員等から労いの言葉やコロナ対策への評価、外気浴の勧め等の意見があった。その意見を受けて秋の日差しの中、ホーム駐車場で「鍋パーティー」をした。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 施設の介護支援専門員が、地域包括支援センターの職員と定期的に集まりをもち、情報交換を行なっています。生活保護の方がいらっしゃるため、区の保護課とも連携を取っています | 月1回の情報交換で地域包括職員から高齢者の心身の虚弱についての話があった。市に福祉用具の料金負担について相談した。市から研修案内があり、可能な限り参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修を行ない、身体拘束しないケアを日々実践しています。夜間の施錠は防犯のため、時間を限って行なっています。(だいたい20時～翌4時まで) | 入居者が出掛けたい素振りがあれば職員が寄り添っている。行動制限にならない置き換え言葉を更衣室等に掲示している。3か月毎に身体拘束等適正化徹底委員会を行い、欠席の職員に資料を渡し共有している。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修を行ない、不適切な対応、虐待についての理解を深めています。入居者様が不快に、苦痛に思うことがないケアを日々心がけています。 | 入居者の言動の裏にある思いを知ろうと努め、職員間で改善策を話し合っている。グレーゾーンの事例を検討し、研修内容のレポートを提出し理解を深めている。管理者と看護師が、職員の悩みを聞き対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいないですが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任意後見とも)、制度を理解している職員もいます。(知識にややばらつきがある) | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいないですが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任意後見2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいないですが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 書面での運営推進会議を行い、自由記述形式の「皆様用紙」同封してご意見やご要望を伺うようにしていました。取り組めることは、速やかに取り組むようにしています。 | 家族からの「皆様用紙」にホーム駐車場の活用やコロナ禍での人と会わない外出方法の意見、やぎあん新聞の感想があった。家族との会話は電話を使い、遠方の家族との面会はガラス越しにする等、要望に応じている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者は年1回～数回、管理者も年1回～数回、職員から様々な提案やアイデア、意見を聞く機会を設けています。 | 職員の発案で誤薬防止に、食事毎に色分けした仕切り付きの箱に保管し、3人の職員で配薬の確認をしている。初任者研修や実務者研修の費用は法人が半額負担している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、個別に面談を行ない、各職員の希望・要望に添うようにしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者が、個々の職員の能力や経験などに応じて、事業所内での研修や外部研修を受けられるようにしています。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者が認知症介護指導者のため、他事業所の管理者や職員との交流の場を多く持つことができている。職員も仙台市の研修などで、個別のネットワーク作りができています。 | 管理者が講師を務めた際に、入居希望者の相談があったり、他施設のコロナ対策情報等を得た。職員は市の研修会に参加し、ドライブコース等の情報交換をした。同法人内で職員不足を協力し合っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コミュニケーションを多く取ることにより、思いや意向を受容、傾聴できています。何でも話しやすいような雰囲気、体制作りを心がけています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | コミュニケーションを大切にし、信頼関係を早い段階で築けるようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様とご家族様の意向を確認し、それに沿うように介護計画を作成しています。自施設で完結させようとは考えておらず、柔軟な発想と提案、情報提供に努めていました。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食器拭きや洗濯物たたみなどの家事活動を通して、入居者様にお手伝い頂き、共同生活の場での関係を築いています。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様に、毎月入居者様の生活のご様子を書いた手紙をお送りしています。また、面会時に生活のご様子をお伝えしながら、状況をみながら職員が会話の間に入ることがあります。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 感染症予防の観点から機会や回数、時間は短くなっていましたが、ご要望や世の中の動向を見ながら面会をしていただいています。電話をかけたいとのご要望には、常にお答えしています。 | 長年会えなかった妹との面会が数十年ぶりに叶い、連絡を取り合うようになった。フランスにいる孫と逢えたり、家族と回転寿司等に行ったり、友人からの年賀状も届き、馴染みの関係支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様が得意なことは率先してできるような環境を整え、難しいことはできる方々で補えるような関係性作りを心がけています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された際には、ご家族様に「何かありましたらご相談ください」と伝えています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人様の意思や意向は常に把握するよう努め、介護職員では対応できないような内容でも管理者やご家族様に相談し、できるだけご希望に添えるようにしています。 | 入居者の好きな事をしている時の表情や声の調子から思いを引き出している。「ホヤが食べたい」に応じたり、昔の仕事の経験を活かして調理の手伝いを「自分の仕事」と思い、本人のやりがいになっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の、ご本人様やご家族様から伺った情報を基にしながら、入居してから情報収集を継続し、ひとりひとりのこだわりを大切にしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 状態の変化を観察、記録、共有しながら、ひとりひとりのご様子を把握するようにしています。そのことで、いつもと違う状態には早く気づくことができます。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成の前に、モニタリングを基にしたカンファレンスを行ない、より現状に即した介護計画になるようにしています。ご家族様とは書面でのやりとりやお電話での聞き取りを行なっています。 | 月1回は入居者の様子を確認し、見直しは状態に合わせて3～6か月で行う。本人と家族の希望で転倒予防のために週1回の通所リハビリを入れた。入居者の希望でミキサー食から刻みや潰し食に計画書を変更した。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 口頭、記録、申し送りノート、インシデント・アクシデント報告書などで職員間の情報共有を丁寧に行っています。内容を確認しながら日々のケアに活かしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 自事業所だけで完結させようとせず、入居者様へご家族様の要望を受けて柔軟な支援をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 感染症対策のため、なかなか活用できていませんでしたが、状況や天候、行き先の選定などを行ないながら、徐々にニーズに合わせた外出を実施しています。(紅葉狩り、神社参拝など) | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご入居に当たり、主治医を訪問診療(たんぼぼクリニック)に変更していただいています。加えて、整形外科や皮膚科、眼科などの専門的な必要な医療が受けられるよう、通院支援を行っています。 | ユニット毎に月2回の訪問診療があり安心に繋がっている。専門医受診時は情報提供資料を持参し、通院後家族へと報告している。必要に応じて、歯科医の往診がある。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の支援で状態に変化がみられた時には、看護師に電話や口頭で報告・相談しています。そこから医師に連絡することもあります。スムーズな連携がとれています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院する際にはご家族様と同行させていただき、なるべく短期間で施設に戻るができるよう病院と話し合いを持っています。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態・状況の変化に合わせて、訪問診療医師からご家族様に説明してもらう時間を設けています。ご家族様等のご希望も伺いながら、双方の話し合いに基づいて今後の方針を決定し、支援に取り組んでいます。 | 「重度化における対応(看取り)指針と同意書」が明文化されている。家族と状態に応じて方針を共有している。入居者の尊厳を大切に、基本的に面会の規制を設けず家族に寄り添い、4人を看取った。医療との連携もとれ、看護師が職員への研修を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急対応マニュアルを掲示して、急変時にはどの職員でも対応できるようにしています。職員の緊急連絡網も掲示して、事故発生時も速やかに対応しています。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 3月と9月に、夜間を想定しての「火災避難訓練」を実施しました(9月は消防署職員の立ち会いあり出の実施)。できるだけ多くの職員が関わることができるようにしています。 | 消防署員から10分以内の避難終了で評価を得た。ヘッドライト等の備品の見直し等の助言があった。職員の反省から、避難誘導時の居室のドアの締め忘れや地域住民との連携強化等があった。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 丁寧な言葉遣い・声がけを行ない、傾聴することを心がけています。プライバシーや羞恥心に配慮し、内容によっては居室でお話することもあります。 | 馴れ馴れしい言動に気を付け、失敗時は周囲にはわからないように声を掛けている。居室には在不在に関わらず、ノックし声を掛け入っている。行事の時は自分で化粧をする入居者がいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入浴介助の際などいろいろな場面で入居者様に了解をもらえるように声がけしていますが、認知症の症状からか、難聴だからか、コミュニケーションが難しい方がいらっしゃいます。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴など、当日のご本人様の体調や気分の変化に応じて、曜日や時間帯など柔軟に変更できるようにしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洗面・整髪などの身だしなみはできるだけ鏡を見ながら行なえるようにし、着替える際は着たい服を選ぶことができるよう声がけ・対応しています。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の盛り付けや食器拭きのお手伝いを頂くことがあります。焼きそばを炒めたり、先日はハンバーグを一緒に作っていただきました。 | 入居者と一緒に買物し、季節感や要望に応じている。パンやおやつを選択メニューや揚げ物、ピザ等が人気である。和菓子職人だった入居者が生地から中華まんを作った。看護師が調理担当者になった。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | おひとりおひとりの日常記録に食事量と水分摂取量を記入しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご自身で口腔ケアをすることが難しい方については、毎食後声がけや介助をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ひとりひとりの排泄間隔に合わせて、トイレでの排泄に間に合うようにご案内するよう努力しています。 | 排泄パターンやそわそわした様子等を観察して誘導をしている。トイレの言葉は使わず「お手伝いをお願いします」等の声掛けにし、出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。2人で介助することもある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品が苦手な方もいますが、ほとんどの方に毎日ミルクココアを提供しています。また、自然な排便が困難な方は下剤を服用して頂いています。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 準備や気持ちの切り替えに時間がかかる方には事前にお声がけし、入りたいタイミングで入浴できるよう支援しています。 | 週2～3回が目安で、拒まれる時には時間や人を変えたり「汗を流すだけでも」等の声掛けをしている。一番風呂や湯温、入浴剤、同性介助等の好みや状態に合わせている。脱衣室や浴室は暖められている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中、眠気がみられた入居者様が居る時には、短時間でも臥床して頂く時間をつくっています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬一覧をフロアに置きいつでも見ることができるようになっています。薬の名前や効果・効用、目的や重要性など、理解していると感じています。また、なかなか飲み込みが難しい方には服薬ゼリーを使用しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事活動のできる方は、自ら率先して取り組んでくださったり、声がけすることで手伝ってくださっています。喜びや楽しみについて、アイデアや意見を出してくださる方もいらっしゃいます。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 基本的な感染症対策ができる入所者様については、入居者様のご希望・ご要望を伺いながら買い物や外出を行なっています。ご家族様に働きかけ、一緒に外出されている方もいらっしゃいます。 | メダカの観察や洗濯物干し等で外気浴をしている。近くの店では酒やコーヒー、週刊誌等を買う方がいる。家族と大型店舗に行き、知人と蕎麦屋に行った。ホーム前の樺並木は季節ごとの散歩コースとなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 毎週2,000円のお小遣い制で買い物を楽しまれている方、欲しいものを言っただき、職員が買い物を代行する方がおりますが、ほとんどの方は施設で管理させていただいております。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族様や妹様などと電話でお話をされている方がいらっしゃいます。ご自分の携帯電話を使われ、自由にやりとりされている方もいます。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 感染症対策として、換気をしながら温度調節をしています。季節感を感じて頂けるよう、フロア(食堂兼居間)の壁に飾りを飾っています。 | フロアには入居者の作った千羽鶴の正月飾りがある。窓を常に少し開けて換気している。百人一首やトランプ、買ってきた週刊誌の記事や風景の話等をして過ごす。モップ掛けを担当している入居者がいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者様の性格などを考えながら、囲碁庫とよく過ごせるような席の配置を行なっています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | できる限りご家族様にご協力頂き、使い慣れた家具やなじみの物、ご家族の写真などをご持参頂いています。居心地良く過ごせるよう努めています。 | 居室の入口には職員作の表札がある。週刊誌を収納する棚を職員が組み立てて好みの場所に設置した。両親やモデル時代の写真、旅先での人形や置物、ぬいぐるみ等があり、寛げる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりや移動バーなどの福祉用具を導入し、ひとりひとりの入居者様が自信を持って安全に動作できるよう環境を整えています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|--|--|
| 事業所番号 | 0495400053 | | |
| 法人名 | 有限会社クラスタ | | |
| 事業所名 | やぎあん (ユニット名:2F) | | |
| 所在地 | 仙台市太白区八木山南3-1-12 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月23日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年1月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年同様、感染対策のため、以前のように入居者様のご希望に柔軟に対応した外出ができていませんが、状況をみながら徐々に緩和していました。面会についても早い段階から行なえるように環境を整えています。玄関での「透明カーテン越しの面会」、1Fフロアでの窓越しの面会、LINEを利用してのオンライン面会、1F2Fそれぞれの事務所を開放しての面会と、感染状況をみながら柔軟に対応し、入居者様とご家族様の状態やニーズに合わせて選べる面会ができます。引き続き感染対策を徹底しながら、おひとりおひとりのご希望に沿った、状態の変化に合わせた柔軟な対応をしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームやぎあん」は、八木山動物公園駅から1km程で日赤病院通りに面している。樺並木が続き、近くには商業施設や住宅が並ぶ緑豊かな中にある。配食業者への依頼を止め、ホームで食材調達や調理をすることで更に家庭的なサービスが提供できている。職員の特技を活かした紙芝居や楽器演奏を披露し、入居者の楽しみになると共に職員同士の輪にもなっている。毎月の担当者からの手紙の他に、年1回程発行する「やぎあん新聞」には行事の様子や入居者の笑顔が収められ、家族に届けられて安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:やぎあん)「ユニット名:2F」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念、介護目標を職員全体で共有できています。理念や目標の達成の為に、前向きに取り組んでいます。 | 理念の「我がままに」に沿って、朝食時間は入居者の要望に合わせている。今年の介護目標を自ら出来る事を自ら探せるようにと職員間で共有している。理念と目標は更衣室に掲示し実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 町内会の会員となり、避難訓練などの行事(地域の黄色いタオル運動など)に参加しています。ご近所の困っている方などの相談や助言も受けています。 | 回覧板で町内会行事の情報を得ている。地域の高齢者より、心身の不安の相談を受けたり医療への橋渡しをしている。八木山小学校の街探検の学習で手紙のやり取りがあり、廊下に掲示している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 管理者が認知症介護指導者のため、仙台市内での認知症関連の研修で、日頃の実践を伝えています。地域の住民からの認知症についての相談を受けることもあります。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 感染症予防の観点から、集合形式の運営推進会議は行なっていませんが、報告する内容をまとめた物をお送りする「書面会議」形式を実施しています。ご意見やアイデアも頂戴しています。 | 年6回開催し、地域包括職員や民生委員等から労いの言葉やコロナ対策への評価、外気浴の勧め等の意見があった。その意見を受けて秋の日差しの中、ホーム駐車場で「鍋パーティー」をした。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 施設の介護支援専門員が、地域包括支援センターの職員と定期的に集まりをもち、情報交換を行なっています。生活保護の方がいらっしゃるため、区の保護課とも連携を取っています | 月1回の情報交換で地域包括職員から高齢者の心身の虚弱についての話があった。市に福祉用具の料金負担について相談した。市から研修案内があり、可能な限り参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修を行ない、身体拘束しないケアを日々実践しています。夜間の施錠は防犯のため、時間を限って行なっています。(だいたい20時～翌4時まで) | 入居者が出掛けたい素振りがあれば職員が寄り添っている。行動制限にならない置き換え言葉を更衣室等に掲示している。3か月毎に身体拘束等適正化徹底委員会を行い、欠席の職員に資料を渡し共有している。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修を行ない、不適切な対応、虐待についての理解を深めています。入居者様が不快に、苦痛に思うことがないケアを日々心がけています。 | 入居者の言動の裏にある思いを知ろうと努め、職員間で改善策を話し合っている。グレーゾーンの事例を検討し、研修内容のレポートを提出し理解を深めている。管理者と看護師が、職員の悩みを聞き対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいませんが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任意後見とも)、制度を理解している職員もいます。(知識にややばらつきがある) | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 2階の入居者様では成年後見制度を利用している方はいませんが、1階の入居者様で利用している方がいるので(法定後見、任意後見とも)、制度を理解している職員もいます。(知識にややばらつきがある) | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 書面での運営推進会議を行い、自由記述形式の「皆様用紙」同封してご意見やご要望を伺うようにしていました。取り組めることは、速やかに取り組むようにしています。 | 家族からの「皆様用紙」にホーム駐車場の活用やコロナ禍での人と会わない外出方法の意見、やぎあん新聞の感想があった。家族との会話は電話を使い、遠方の家族との面会はガラス越しにする等、要望に応じている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者は年1回～数回、管理者も年1回～数回、職員から様々な提案やアイデア、意見を聞く機会を設けています。 | 職員の発案で誤薬防止に、食事毎に色分けした仕切り付きの箱に保管し、3人の職員で配薬の確認をしている。初任者研修や実務者研修の費用は法人が半額負担している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、個別に面談を行ない、各職員の希望・要望に添うようにしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者が、個々の職員の能力や経験などに応じて、事業所内での研修や外部研修を受けられるようにしています。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者が認知症介護指導者のため、他事業所の管理者や職員との交流の場を多く持つことができている。職員も仙台市の研修などで、個別のネットワーク作りができています。 | 管理者が講師を務めた際に、入居希望者の相談があったり、他施設のコロナ対策情報等を得た。職員は市の研修会に参加し、ドライブコース等の情報交換をした。同法人内で職員不足を協力し合っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | できていると感じています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | できていると感じています。信頼関係を大切にしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様とご家族様の意向を確認し、それに沿うように介護計画を作成しています。施設で完結させようとは考えておらず、柔軟な発想と提案、情報提供に努めていました。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | できていると感じています。家事活動など、できる生活動作・能力を発揮できるよう働きかけています。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | できていると感じています。施設に入居したからといってご家族様との関係はなくなるわけではないので、細かいことと思われるようなこともひとつひとつ確認させていただいています。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 感染症予防の観点から機会や回数、時間は短くなっていましたが、ご要望や世の中の動向を見ながら面会をしていただいています。電話をかけたいたいのご要望には、常にお答えしています。 | 長年会えなかった妹との面会が数十年ぶりに叶い、連絡を取り合うようになった。フランスにいる孫と逢えたり、家族と回転寿司等に行ったり、友人からの年賀状も届き、馴染みの関係支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様が得意なことは率先してできるような環境を整え、難しいことはできる方々で補えるような関係性作りを心がけています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された際には、ご家族様に「何かありましたらご相談ください」と伝えています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人様の意思や意向は常に把握するよう努め、介護職員では対応できないような内容でも管理者やご家族様に相談し、できるだけご希望に添えるようにしています。 | 入居者の好きな事をしている時の表情や声の調子から思いを引き出している。「ホヤが食べたい」に応じたり、昔の仕事の経験を活かして調理の手伝いを「自分の仕事」と思い、本人のやりがいになっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の、ご本人様やご家族様から伺った情報を基にしながら、入居してから情報収集を継続し、ひとりひとりのこだわりを大切にしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 状態の変化を観察、記録、共有しながら、ひとりひとりのご様子を把握するようにしています。そのことで、いつもと違う状態には早く気づくことができます。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成の前に、モニタリングを基にしたカンファレンスを行ない、より現状に即した介護計画になるようにしています。ご家族様とは書面でのやりとりやお電話での聞き取りを行なっています。 | 月1回は入居者の様子を確認し、見直しは状態に合わせて3~6か月で行う。本人と家族の希望で転倒予防のために週1回の通所リハビリを入れた。入居者の希望でミキサー食から刻みや潰し食に計画書を変更した。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 口頭、記録、申し送りノート、インシデント・アクシデント報告書などで職員間の情報共有を丁寧に行っています。内容を確認しながら日々のケアに活かしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 自事業所だけで完結させようとせず、入居者様へご家族様の要望を受けて柔軟な支援をしています。身体機能・能力の維持のため、通所リハビリに通っている方がいらっしゃいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 感染症対策のため、なかなか活用できていませんでしたが、状況や天候、行き先の選定などを行ないながら、徐々にニーズに合わせた外出を実施しています。(紅葉狩り、神社参拝など) | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご入居に当たり、主治医を訪問診療(たんぼぼクリニック)に変更していただいています。加えて、整形外科や皮膚科、眼科などの専門的な必要な医療が受けられるよう、通院支援を行っています。 | ユニット毎に月2回の訪問診療があり安心に繋がっている。専門医受診時は情報提供資料を持参し、通院後家族へと報告している。必要に応じて、歯科医の往診がある。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の支援で状態に変化がみられた時には、看護師に電話や口頭で報告・相談しています。そこから医師に連絡することもあります。スムーズな連携がとれています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院する際にはご家族様同行させていただき、なるべく短期間で施設に戻ることができるよう病院と話し合いを持っています。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態・状況の変化に合わせて、訪問診療医師からご家族様に説明してもらう時間を設けています。ご家族様等のご希望も伺いながら、双方の話し合いに基づいて今後の方針を決定し、支援に取り組んでいます。 | 「重度化における対応(看取り)指針と同意書」が明文化されている。家族と状態に応じて方針を共有している。入居者の尊厳を大切に、基本的に面会の規制を設けず家族に寄り添い、4人を看取った。医療との連携もとれ、看護師が職員への研修を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急対応マニュアルを掲示して、急変時にはどの職員でも対応できるようにしています。職員の緊急連絡網も掲示して、事故発生時も速やかに対応しています。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 3月と9月に、夜間を想定しての「火災避難訓練」を実施しました(9月は消防署職員の立ち会いあり出の実施)。できるだけ多くの職員が関わることができるようにしています。 | 消防署員から10分以内の避難終了で評価を得た。ヘッドライト等の備品の見直し等の助言があった。職員の反省から、避難誘導時の居室のドアの締め忘れや地域住民との連携強化等があった。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 丁寧な言葉遣い・声がけを行ない、傾聴することを心がけています。プライバシーや羞恥心に配慮し、内容によっては居室でお話しすることもあります。不適切と思われる声がけがある時は、個別に声がけしています。 | 馴れ馴れしい言動に気を付け、失敗時は周囲にはわからないように声を掛けている。居室には不在に関わらず、ノックし声を掛け入っている。行事の時は自分で化粧をする入居者がいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 離・臥床や食事、入浴、トイレ案内など、日々の生活の中で本人様に選んでいただいたり決めていただけるよう声がけしています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴など、当日のご本人様の体調や気分の変化に応じて、曜日や時間帯など柔軟に変更できるようにしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 洗面・整髪などの整容はできるだけ鏡を見ながら行なえるようにし、着替える際は着たい服を選ぶことができるよう声がけ・対応しています。目やにが多い方がいらっしやるので、その都度ガーゼで拭き取っています。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様の状態に合わせた食事形態で提供しています。ほぼ毎日毎食、食事の盛り付けや食器洗い・食器拭きのお手伝いをいただいています。 | 入居者と一緒に買物し、季節感や要望に応じている。パンやおやつを選択メニューや揚げ物、ピザ等が人気である。和菓子職人だった入居者が生地から中華まんを作った。看護師が調理担当者になった。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や形態をひとりひとりの状態に合わせて対応しています。栄養が不足している場合にはエンシュアなどで補います。水分もお好みに合わせてできるだけ飲んでいただくよう、バリエーションを増やしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | できるだけご自分でできるよう声がけし、難しい場合には介助しています。嫌がられる時には時間を変えたり対応する職員を変えたりします。無理な介助はしていません。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を使用し、ひとりひとりの排泄パターンや間隔に合わせたトイレ案内・パット交換を行なっています。パットも皮膚状態や尿量などに合わせて細かく選定しています。 | 排泄パターンやそわそわした様子等を観察して誘導をしている。トイレの言葉は使わず「お手伝いをお願いします」等の声掛けにし、出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。2人で介助することもある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日中に乳製品や水分をできるだけとっていただくようにしています。体操の時間を設け、それ以外でも家事活動やレクリエーションなどで身体を動かしていただくよう支援しています。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 定期的に入浴したい方はできる限りご希望に合わせています。職員側で一方的に間隔を決めることなく、お誘いし、気分が乗らない時にはタイミングや日にちを変えています。 | 週2～3回が目安で、拒まれる時には時間や人を変えたり「汗を流すだけでも」等の声掛けをしている。一番風呂や湯温、入浴剤、同性介助等の好みや状態に合わせている。脱衣室や浴室は暖められている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後、臥床される方が多いです。習慣的に横にならない方は、無理にすすめるようなことはしていません。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 何のための薬か、なぜ飲むのかなど確認できるように、服薬一覧を各フロアに置いてあります。服薬内容が変わった時など、状態の変化を観察しています。飲み込みが難しい方は服薬ゼリーを使用しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事が得意な方は掃除や食器拭きなどを手伝ってください。手先が器用な方は作品作りや歌の歌詞の書写を楽しまれています。コーヒーがお好きな方は、お好きな時間に提供しています。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症対策の観点から、これまでのような外出支援ができていませんでしたが、天候をみて施設周りを散歩したり、コンビニに雑誌を買いに行ったり、9月くらいからはドライブも徐々に行なっていました。 | メダカの観察や洗濯物干し等で外気浴をしている。近くの店では酒やコーヒー、週刊誌等を買う方がいる。家族と大型店舗に行き、知人と蕎麦屋に行った。ホーム前の樺並木は季節ごとの散歩コースとなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自分で管理できる方はおひとりですが、ご希望に合わせてお預かりしているお金でお菓子などの嗜好品を購入しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | かかってきた電話を取り次ぐことはしていますが、入居者様自らは実施できていません。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロア(食堂兼居間)には季節ごとの壁飾りを掲示し、季節感を感じていただいています。常に換気をしています。室温が下がりにすぎないように温度調整していました。 | フロアには入居者の作った千羽鶴の正月飾りがある。窓を常に少し開けて換気している。百人一首やトランプ、買った週刊誌の記事や風景の話等をして過ごす。モップ掛けを担当している入居者がいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ひとりでゆったりくつろいで座れるソファで休まれる方や、数名でお茶を飲んで過ごされるなど、ひとりひとりの安心して過ごせる場を提供しています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | できる限りご家族様にご協力頂き、使い慣れた家具やなじみの物、ご家族の写真などをご持参頂いています。居心地良く過ごせるよう努めています。 | 居室の入口には職員作の表札がある。週刊誌を収納する棚を職員が組み立てて好みの場所に設置した。両親やモデル時代の写真、旅先での人形や置物、ぬいぐるみ等があり、寛げる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを設置しています。立ち上がりや数歩の歩行ができる方には福祉用具(移動バー、手すり)を設置し、安全に自信を持って動作できるよう環境を整えています。 | | |